

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

01

2017 Jan.

vol.105



【特集】

九州大学 2018年4月、「共創学部」を設置

(構想中)

【KYUDAI SPECIAL TOPICS】

正式決定! 113番元素

元素名「nihonium(ニホニウム)」

元素記号「Nh」

Front Runner

“ヒト”の生体システムを基に
化学の力で医療と環境に技術革新

大学院工学研究院 准教授 星野 友



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

新元素名正式決定

113

Nh

nihonium
ニホニウム



歴史散策

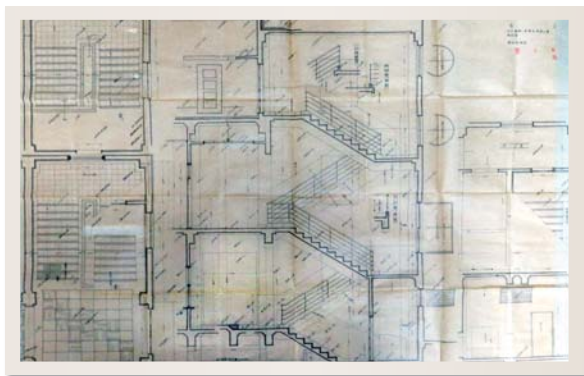
KYUDAI HISTORY STROLL

13

九州帝国大学 法文学部演習室

正門南辺に1925(大正14)年竣工した法文学部本館は壮麗なセセッション様式建築であったが、学生の増加に伴い手狭となり、周辺には心理学教室などの附属施設が順次造られた。現在、附属図書館付設記録資料館産業経済資料部門(旧石炭研究資料センター)が使用する建物も、当初は法文学部の演習室であった。島岡春三郎建築課長(当時)の設計、戸田利兵衛の請負(戸田建設の前身)によって1937(昭和12)年に建てられた。鉄筋コンクリート造2階建の外観は平滑な印象を受けるが、間取りや内装は図面からもほぼ当時と変わらないことが読み取れ、戦前期の大学の雰囲気が濃厚に遺る。

市原猛志(百年史編集室 助教)



法文学部演習室新築工事設計図・階段詳細図(右上に島岡課長の検印がある)



附属図書館付設記録資料館産業経済資料部門(2015年7月23日)

目次

02	05	09	11	13	14	15	17	19	20	25	28
【特集】 2018年4月、「共創学部」を設置 いま 現在を、未来を、共に創る 共創学部 2018.4 START	Front Runner 大学院工学研究院 准教授 星野友	KYUDAI SPECIAL TOPICS	記者会見レポート	世界のキャンパス	留学生体験記	躍動 邦楽部	Close up エネルギー研究教育機構(Q-PIET)の設置	MUSEUM REPORT	KYUDAI TOPICS 受賞のお知らせ	九州大学基金 24	同窓会だより
											●愛媛同窓会総会・懇親会 ●文学部同窓会総会・懇親会 ●インドネシア同窓会 ●九州大学アカデミックフェスティバル2016(ホームカミングデー) ●第25回「東海九大会」 ●法学部同窓会総会・懇親会 ●東京同窓会総会就職セミナー

表紙について

2016年12月1日(木)に開催された記者会見での一枚です。九州大学のシンボルロゴマークを背景に、大学院理学研究院の森田教授と久保総長のツーショット。この光景は本学の学生や卒業生にとっても誇り高い一枚となるでしょう。

近い将来、子どもたちが化学の時間に「ニホニウム」を習ったとき、これだけの功績を残した大先輩がいることに無限の可能性を感じるはずです。森田教授の笑顔はまるで、未来の化学者たちにエールを送っているように見えます。

■編集・発行:九州大学広報室 〒819-0395福岡市西区元岡744
■TEL:092-802-2130 ■FAX:092-802-2139
■E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
■Webサイト:http://www.kyushu-u.ac.jp/
■印刷:株式会社ミドリ印刷 ■編集協力・取材:株式会社チカラ
■撮影:岡本正人、加来和博、中西ゆき乃、平川雄一郎
■デザイン:才原貴生(Office Chameleon)

◎お読みになつてのご感想やご意見をお待ちしています。
◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。
◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。
◎次号は、2017年4月発行予定です。

2018年4月、「共創学部」を設置



いま 現在を、未来を、共に創る

九州大学は、記者会見を開き、2018年4月に12番目の学部として国際社会で活躍するグローバル人材を育成する学生定員105名の共創学部を設置する予定であると発表しました。記者会見で久保千春総長は、「新学部は、本学が実施している21世紀プログラムの成果と基幹教育の教養教育の重要性を踏まえています。ぜひ自らイノベーションを起こす意欲ある学生の応募を期待しています」と、また丸野俊一理事・副学長は、「異なる社会的背景を持つ他者と共に、新しい社会や価値を創る人材を育てます」と話しました。

1967年6月の歯学部設置以来、約50年ぶりに新たな学部を設置し、複雑・多様化するグローバル社会において、多様な人々との協働から異なる観点や学問的な知見の融合を図り、共に構想し、連携して新たな物事を創造する「共創」により新たなイノベーションの創出を担う人材の育成に取り組めます。

(新学部の設置については構想中であり、内容は今後変更する場合があります。)



記者会見の様子

共創学部

School of Interdisciplinary Science and Innovation

2018.4
START

九州大学は2018年4月に、入学定員105人の「共創学部」の設置を構想しています。
この学部を卒業すると、「学士(学術)」の学位が授与される予定です。

■ 構想概要 ■

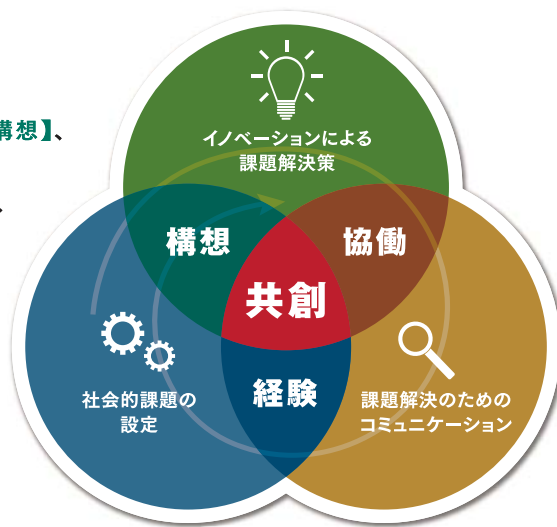
九州大学では、2001年度より「21世紀プログラム」において、自分の「やりたいこと・学びたいこと」の実現に向けて自ら学びを創り上げ、問題発見・課題設定とその解決能力に優れた「専門性の高いゼネラリスト」の育成に取り組んできました。また、2014年度には、「ものの見方・考え方・学び方」を学ぶ「基幹教育」を開始し、学び続けることを幹に持つ、未知な問題や状況にも果敢に

挑戦するスピリットと行動力を備えた「アクティブ・ラーナー」の育成に取り組んでいます。

21世紀プログラムで培ったノウハウと、基幹教育での「アクティブ・ラーナー」育成の実績を踏まえ、2018年4月に文理融合の「共創学部」を新設し、課題解決型人材の育成に取り組みます。

■ コンセプト ■

社会的課題の設定から課題解決策を考え【**構想**】、課題解決に向け他者と取り組み【**協働**】、構想から協働までの一連の【**経験**】を通じて、【**共創**】を目指します。



■ 育成する人材 ■

急速な社会変化から生じた複雑・多様な課題・問題は、単なる知識の蓄積や技術の改良だけでは立ち向かうことが困難であり、言語や文化、宗教、価値観、経済などの社会的背景を理解したうえで、自らの問題意識に基づき、分野横断的な発想をもって解決手段を見つけることができる人材が求められています。

共創学部では、人文科学、社会科学、自然科学の既存の学問分野を横断しながら文系・理系両方の考え

方や方法論を身に付け、国家・地域間の紛争問題や環境・気候変動など、地球規模の課題・問題をテーマとする学修を通じて、「自ら課題を発見し、他者と協働して課題解決やイノベーションの創出に取り組むことのできるグローバル人材」を育成し、将来、研究者や専門家、企業人として、国内外で活躍できる人材を社会に送り出します。

■ 幅広い学問分野－4つの領域(エリア)等 ■

様々な課題に対応する4つの領域(エリア)を設け、異なる学問分野を専門とする教員が指導します。
学生が自ら興味・関心をもった領域に関連する授業科目を自由に選択できる柔軟なカリキュラムを編成しています。

01 人間・生命エリア

生命の発生・進化や、人間の思考・認知・判断の仕組みなどを、生物学、認知科学、脳科学等を通して学びます。

02 人と社会エリア

意思疎通における言語の仕組みや、先史社会、多文化共生、社会における生活実践としての福祉、宗教観などを、社会学、文化人類学、コミュニケーション学等を通して学びます。

03 国家と地域エリア

国家や地域の歴史、特徴的な経済・社会現象、政治や経済面での関係性などを、政治学、経済学、史学等を通して学びます。

04 地球・環境エリア

地球がもつ資源や、地球環境の変化による災害、生命が環境に与える影響などを、地球惑星科学、社会・安全システム科学、基礎生物学等を通して学びます。



エリア横断

4つの領域(エリア)による学びの共通の基礎となり、さらには構想を発展させる役割を担う横断的な科目、例えばクリエイティブなアプローチを活用した思考法である「デザイン思考」や、新たな価値を引き出すためのデータ処理・分析などの「データサイエンス」、さらには地球的視野を学ぶ「グローバルヒストリー」等を履修することにより、課題・問題の解決に必要な知識・能力を身につけます。

■ 学びの特色 ■

①文理を融合したカリキュラム

人文科学、社会科学、自然科学の既存の学問分野を横断しながら、文系マインド・理系マインドや多様な方法論を身につけさせ、実践的な課題に基づいた学修を行います。

②協働学習(PBL/TBL※型学習)

グループでテーマについて議論しあう協働学習を取り入れ、他者と協働で学ぶことにより広い視野と柔軟な思考力、物事を色々な角度から捉える複眼的な洞察力を涵養します。

※PBL: Problem-Based Learning, TBL: Team-Based Learning

③習熟レベルに応じた英語教育

習熟レベルに応じた英語教育を初年次から実施し、世界や日本の時事問題を英語で学ぶことにより、現代の課題を意識し、常に最新の情報をグローバルな視野で入手する姿勢を涵養します。



④海外大学等への留学

大学間交流協定校をはじめ、海外大学等へ一定期間の留学を課し、国際体験を通じた国際理解・知識の拡大と、語学力やコミュニケーション力の向上を図ります。

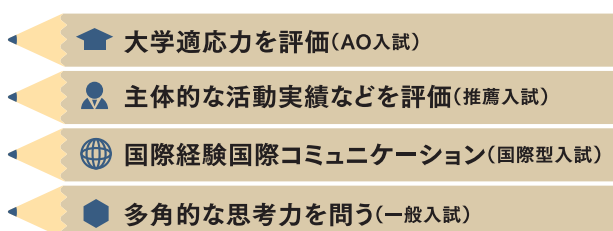
⑤Class Share

日本人学生と留学生が共に学ぶ教育環境(Class Share)を構築し、学生と教職員がアクティブに交流することにより、相乗的・協働効果を生み出すグローバル・ハブ・キャンパスの形成を図ります。

■ 入学者選抜 ■

知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力や、主体性・多様性・協働性を持つ多様な学生を選抜するため、4つのタイプの入学者選抜を実施します。

※入学者選抜の詳細については、平成29年3月以降に公表予定。



「フロンランナー」は九州大学の若手研究者の最前線をインタビュー形式で紹介するシリーズです。

ビトの 生体システムを基に 化学の力で医療と 環境に技術革新

身近な材質であるプラスチックから抗体をつくり、今後ますます需要が高まる二酸化炭素分離技術を追究する工学研究院の星野友准教授。未来の暮らしを変える最先端の技術研究・開発についてお話を伺いました。



九州大学 大学院工学研究院 准教授

星野 友 Yuu Hoshino

2001年3月	東京工業大学 生命理工学部 卒業
2003年3月	東京工業大学 大学院生体分子工学科 修士課程修了
2005年4月	日本学術振興会 特別研究員
2006年3月	東京工業大学 大学院生命理工学研究科 博士課程修了
6月	カリフォルニア大学アーバイン校 研究員
2010年9月	九州大学 大学院工学研究院 助教
2013年5月	平成24年度 高分子研究奨励賞 受賞
	第二回 新化学技術研究奨励賞 受賞
9月	九州大学 大学院工学研究院 准教授
2015年6月	平成27年度 文部科学省 若手科学者賞 受賞

——今研究されている二つのテーマのうち、まずはプラスチック抗体について教えてください。

安価なプラスチックの原料からさまざまな病気に効果的な抗体や酵素をつくりだす、プラスチック抗体を研究・開発しています。これまでの抗体は細胞を培養して生産するため、製造コストがネックでした。治療費は一回数十万、年間数百万にもなってしまうのです。良い薬であっても、気軽には使えない。この抗体を1000分の1、1000分の1の価格で開発できれば治療費が大幅に抑えられます。この研究をアメリカのカリフォルニア大学アーバイン校

留学中にスタートし、平成22年に九州大学に着任後も続けています。

——プラスチックからどうやって抗体をつくるのでしょうか。

抗体は抗原と合致する形であり、＋と－の電荷や引き合う分子（疎水性）が備わっていることが条件です。例えば、ウイルスが＋の電荷を持っているなら抗体には－の電荷を付加する。さらに抗原に疎水性の部分があれば、－電荷と疎水性の両方を有していれば、抗体は抗原を捉えることができるのです。

——どのようにウイルスと引き合うプラスチック抗体を見つけるのでしょうか。

ウイルスの組成要素、アミノ酸は世の中に20種類存在しています。このアミノ酸と引き合うプラスチックの原料（モノマー）はどれなのか、＋と－の電荷はどういう組み合わせなのかを一つ一つサンプルを合成して調べています。モノマーに使うのはおしめの吸収剤で使われているものや下水処理の凝集剤に使われているものなどさまざまあり、1キログラム数百円程度の安価な材料です。このモノマーがどのくらい抗原（ウ

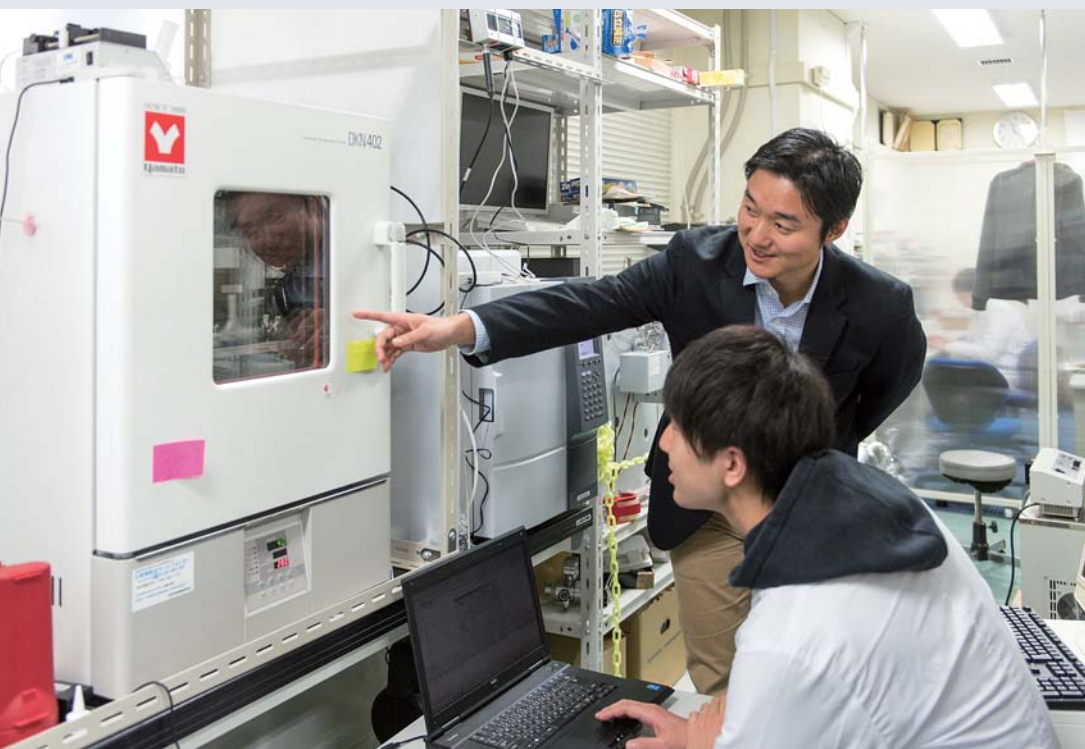
イルスや毒）を認識するか、モデル分子として良く研究されている蜂の毒（メリチン毒）を用いて実験しています。

——実験はどのくらい進んでいるのでしょうか。

メリチン毒と引き合うモノマーを粒子化したナノ粒子が、毒を

中和できることが分かってきました。マウスにメリチン毒性を投与したのち、開発したナノ粒子を与えたところ、マウスの生存率が向上したのです。ナノ粒子は血流

中でメリチン毒性を認識し、解毒機能のある肝臓に送っていました。この理論を応用すれば、い



CO₂分離膜を低温加熱し分離状況を測定する

ずれガンや敗血症などさまざまな抗体をプラスチックからつくることのできるでしょう。

——実用化されるには、どのような過程を経るのでしょうか。

血中に投与するには安全性の確認や臨床実験が必要ですが、プラスチックから成る医薬の中には、既に実用化されている物もあります。プラスチックは体内に吸収されないという特性を生かして、腎臓病患者向けの経口投与薬がアメリカで開発されました。腎臓病は尿でリン酸をうまく排出できず、体内に毒素を蓄積させてしまうため、人工透析をしなければなりません。しかし、プラスチック抗体からつくられた薬を摂取することで、抗体が体内のリン酸を吸着し排出してくれるのです。

——近い将来、この技術が医療の分野以外にも生かされそうですね。

経口投与で利用できる食中毒薬や点眼薬、うがい薬などの医薬品のほか、洗顔料や歯磨き粉といった洗い流す製品は実用化しやすいと考えています。5年後までには実用化の用途を立て、戦略的に特許も取得していく予

定です。プラスチックは自然環境に悪いというイメージが先行しがちですが、ポテンシャルが高い素材なのです。

——もう一つ、先生の研究の柱となっているCO₂分離材の開発について教えてください。

原子力発電が停止している今、日本の電力の90%を担う火力発電で、排気ガスからCO₂のみを分離するための素材を開発しています。日本は2030年までにCO₂排出量を2013年度比26%を削減する目標を立てました。発電しながらCO₂を出さない技術、回収したCO₂を再利用する技術がいま求められているのです。分離して回収し、地中や海中に貯留したり、有効活用したりすれば、地球温暖化に効果的であると考えています。

——具体的にはどのように分離・回収するのでしょうか。

アミン水溶液という素材は低温でCO₂を吸着し、110度、130度の高温に熱すると放散する特徴を持っています。そして繰り返し利用できます。この水溶液を使えば分離することは比較的簡単ですが、水溶液を熱し



プラスチックモノマーと電荷を合成しサンプルをつくる

て放散するためにも電力が不可欠です。今の発電量をさらに2〜3割増やさなければなりません。分離のために余計にCO₂が排出されることになってしまいまず。そこで、加熱エネルギーを削減するため生体システムに注目しました。低エネルギーで酸素とCO₂を循環できるヒトのよう

に、75度の低温加熱で分離回収できるプロセスを開発したので

——確かに、体のなかではほとんどエネルギーを使わずに酸素を取り込み、CO₂を分離していますね。

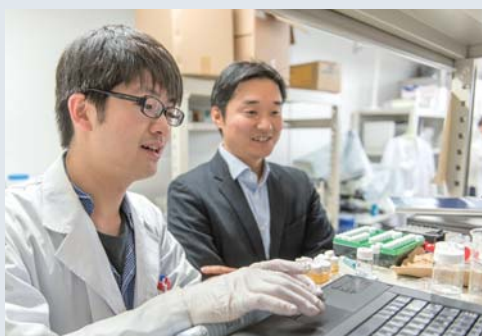
生体内のガス交換システムは、ヘモグロビンが酸素を運び、構造を変えてCO₂を吸着して体外に排出しています。分離の要になるのはヘモグロビンというタンパク質の特性です。循環する間に構造を変化させて酸素とCO₂を交互に吸着・放出しています。ヘモグロビンのように構造が変化する分子をプラスチックからつくり出せれば、CO₂を吸着・放散できると仮説を立てました。この分離技術にも先ほどのプラスチック抗体の合成方法を応用しています。

——形、+と-の電荷、そして引き合う分子の組み合わせですね。

その通りです。下水処理の凝集剤と同じモノマーからつくった非常に安価なナノ粒子は、40度程度で形が変わり収縮します。温度によって形が変わることまでは分かっていたのですが、この変化が何に役に立つのだろうか



JAXAと共同研究している藻類観察装置



合成した分子の大きさを測定する

思っていました。九州大学に着任後、他の先生とディスカッションするうちにこの膨張・収縮がCO₂の吸着・放散に使えそうだと気づいたのです。調べてみると、+と-の電荷にも変化が生じ、構造が変わることを発見しました。これにCO₂と結びつくアミンを

組み込み、30度程度でCO₂を吸着し、75度で放出する吸収剤の開発に成功したのです。この成果が認められ、現在は国からの助成金をもとにさらに研究を進めています。

——今後はこの技術をどのように応用するのでしょうか。

低温でCO₂を分離できるようにしたのはすばらしい前進です。しかし、加熱しなくて分離できればさらにCO₂排出量を削減することができます。今はこのナノ粒子を膜状にして、分離膜に排ガスを通すことで回収できる技術を開発しています。どの組成物質が最もCO₂を吸着・放出するのか、つくったサンプルは年間1000タイプにものぼります。今後実用化するには、民間企業とともに私たちのつくる分離膜を製品化し、工場に導入するためのシステムまで一貫して共同開発する必要があるでしょう。さまざまな企業から研究に興味をもっていたいているのでやりがいを感じます。

——分離・回収システムは今後どのような発展性が見込まれるのでしょうか。

最終的には分離したCO₂を



Q 研究の合間の息抜きは?

A 研究以外の仕事が年々増えていく中で、研究が息抜きの役割を果たしています。特に学生とのディスカッションは楽しいですね。チームの研究成果や研究の進め方などを聞いて、どうしてその結果につながったのか、どう改善すれば良いかなど話し合うのは癒しになります。そこで発見があればよく眠れます。学生にとっては息抜きになっていないかも知れませんが…。

Q 研究室の学生たちはどのように研究を進めていますか?

A 研究室の三浦先生も私も、「企業との共同研究にはなるべく学生を巻き込まない」ようにしています。学生にはサイエンティフィックで「化学はおもしろい」と思えることを経験して欲しいのです。そのために、「なぜ面白いのか」「この研究がなぜ今重要なのか」を伝えるようにしています。また、議論には妥協しません。エンジニア、研究者として生きていく時に結果に目を背けずに論理立てて議論することが重要なスキルとなるからです。毎日うまくいくわけではないので、結果を共有してみんなで改善点を考え、みんなで乗り越え、チームで楽しむようにしています。学生たちが成長していく姿はやりがいにつながっています。



Q 座右の銘にしている言葉はありますか?

A 留学中に言われた「今面白いと思っている研究は、将来も絶対に面白いと思えるよ」という言葉。それもあって、学生たちには「人真似ではなく『これは自分の研究』と言える面白いテーマに取り組みましょう」と声を掛けています。

Q 九州大学で研究するメリットとは?

A 研究がはかどる状況が提供されています。三浦先生は研究に集中できる環境をつくってくださいますし、周囲の研究室の先生との距離が近くて、共同研究しやすいと感じています。共同研究スペースも充実していて、研究の障害が何もありません。

生物が利用できるようにしていきたいと考えています。JAXAとの共同研究では、CO₂濃度が上がった宇宙ステーションや宇宙空間で分離し、その後どう利用するか藻類を用いて実験しています。いずれ、藻類だけではない生物がCO₂を取り込み、その生物をヒトが食用として利用す

る、という循環をつくるのが目標です。CO₂を人の手で還元して食料や燃料に変換する方が良いと思います。そんな社会がやってきたときに低コストで分離できる技術を確認したいと考えています。

——さまざまな企業や研究室とのコラボレーションが、新しい成果につながるのですね。
共同研究は分野が遠いほど面白いテーマに辿りつくことができます。これまでも薬学部、動物実験の専門家、医療従事者、製薬会社、プラントメーカーなど何かが現場で問題になっているかをディスカッションしてきました。また、専門外の方との距離の近さでいえば、九州大学は他の研究室の先生と距離が近く、今まで関わったことのない化学工学の先生から興味深い話が伺えて刺激的です。

——研究のゴールはどこに定めて
いらっしゃるのでしょうか。
学生の頃から変わらず興味を持つているのは生体を模倣して研究を進めることですね。生物の活動、体内システムはすべて、化学で説明できる。このシステムをうまく利用すれば、化学の力で人工生命体をつくり出せると考えています。夢はなるべく大きい方が面白いからです。

——先生の研究が実を結んだ時には、私たちの暮らしは大きな転換期を迎えるのでしょうか。ありがとうございます。



今回の聞き手
学術研究・産学官連携本部
研究戦略推進グループ
研究推進主幹(URA)
吉野 利明





新たな時代を切り拓く!九大生344名の旅立ち

平成28年度 秋季学位授与式

平成28年9月26日(月)、伊都キャンパスの椎木講堂において、平成28年度秋季学位記授与式を挙行し、学士課程35名、修士課程139名、専門職学位課程2名、博士課程168名の計344名が新たに本学の学位を授与されました。

式は本年4月以降に学位取得の要件を満たした卒業生・修了生が出席し、近年における留学生修了者数が増加していることや大学の国際化を踏まえ、初めて使用言語を英語で行いました。

久保総長の告辞において「九州大学を卒業したことに誇りを持ち、学んだことを生かし、夢を持って今後の未来を切り開いて、大きく飛躍してほしい」と激励の言葉を述べられるとともに、卒業生・修了生がグローバル社会を力強く牽引するリーダーとして大成することを期待して告辞を結び、はなむけの言葉として贈られました。

また、卒業生・修了生を代表して数理学府博士後期課程の近藤宏樹さんが「成熟したアクティブ・ラーナーとして、九州大学で獲得した力を使って新しい時代を切り拓いていきます」と答辞を述べました。

なお、今回から総長および各課程の修了代表者が、大学オリジナルで作成したアカデミックガウンを着用することで、これまで以上に思い出深く記憶に残る式典となりました。

平成28年度 秋季入学式 外国人短期留学 プログラム開講式

平成28年10月3日(月)、伊都キャンパスの椎木講堂において、平成28年度秋季入学式・外国人短期留学プログラム開講式を挙行し、学士課程国際コースの学部生27名、修士課程生167名、博士課程生164名、JTW(外国人短期留学コース)とJLCC(日本語・日本文化研修コース)の外国人短期留学プログラム生71名の計429名が、新入生として入学しました。

約9割が外国人留学生であるため、式はすべて英語で執り行われ、久保総長は新入生への告辞で「九州大学で学んだことを誇りに思いながら、グローバル社会を牽引する国際的なリーダーとして大成されることを期待します。皆さんがこれから有意義な留学生生活を送り、留学の目的を達成されることを心から願っています」と述べました。

続いて、4名の来賓紹介があり、代表して丁剣中華人民共和国駐福岡総領事館領事から歓迎の挨拶をいただきました。

最後に、新入生を代表して工学部のシャルマ・アンヴィクシャさん(インド)、経済学府博士後期課程のデルガドナ・ロアウグストリカルドさん(ペルー)、JLCCのチン・コーセイさん(中国(香港))の3名から、歓迎への感謝の意や学生生活の抱負を交えた挨拶が行われ、式は盛会のうちに幕を閉じました。

世界と繋がる!未来のリーダー429名が入学





正式決定! 113番元素名「nihonium(ニホニウム)」元素記号「Nh」

アジア初の功績に 喝采が集まった記者会見



記者会見の様子

2016年11月30日(水)、大学院理学研究員の森田浩介教授(国立研究開発法人理化学研究所超重元素研究グループグループディレクター)を中心とする研究グループが提案していた113番元素の名称および記号が、グループの提案通り、元素名「nihonium(ニホニウム)」、元素記号「Nh」に決定したことを発表しました。

決定の連絡を受けて、12月1日(木)に福岡市で国立研究開発法人理化学研究所による記者会見が開かれました。

森田教授は「日本発、アジア初の元素名が人類の知的財産として将来にわたり継承される周期表の一席を占めることになりました。研究グループの代表として大変光栄に思います。基礎科学には、発見当時は思いもつかないようなものが、のちに多大な恩恵を人



森田教授にお祝いの花束を渡す久保総長

類にもたらした例が数多くありますが、日々の生活や産業に即時に直接的な恩恵を与えることは稀です。このような長期的で地道な基礎科学研究を支援してくださった国民の皆様、そして研究所と関係府省の皆様改めて感謝いたします。ありがとうございます」と喜びを語りました。

記者会見の最後には久保千春総長が花束を持ってサプライズ登場。「世界中で使用される元素周期表の一角に日本語の語感を残した『ニホニウム』が加わることは、日本のこれからの担う学生、若手研究者のモチベーションを大きく向上させる意義深いことと考えております」と森田教授を称えました。

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE 2017.01 | 11



九大生が現地からレポート

世界のキャンパス

九州大学から世界へ!!

海外でどんなことを学び、どんな暮らしをしているのか。素直な言葉で語っていただきました。

ハイレベルな講義を受けて
休日はカフェで息抜き。
メリハリのある9カ月でした。



21世紀プログラム

4年

原 二葉沙
(はら たばさ)



留学国: イギリス
留学先: リーズ大学



リーズ大学構内

ロンドンから電車で北に約2時間、イギリスの中央に位置する街・リーズ。私はこの街の中心部にあるリーズ大学で約9カ月の交換留学を経験しました。九州大学とは2014年8月に大学間学生交流協定を結んだばかりなので、私は派遣第1期生です。

私はリーズ大学でカルチュラルスタディーズという学問について主に学びました。これは、アメリカとイギリスで発展した日常生活における意味や行動について研究をする学問です。毎回の授業は、基礎であるマルクスやハイドガーなどの著書を読み、ディスカッションをするというレベルの高いものでした。しかしハイレベルな授業にもかかわらず、留学生である私が安心して受講できるほど先生やチューターの手厚く、一人一人の学習状況をしっかりと見届けてくれる制度が整っているのはリーズ大学の特長です。

私のおすすめは中心部から少し離れたところにあるヘディングリーという郊外。居心地のよい小ぢんまりとした個人経営のカフェやレストランが数多く並び、休日にはおいしいコーヒーとケーキでよく一息ついていました。

平日は勉学に励み、休日は友人とお気に入りの場所へ遊びに行く。自分なりの充実した留学生活をリーズ大学で実現できました。



英語のクラスメイトと各国のご飯を持ち寄りボラックパーティー。(後列左側から3番目が本人)

留学生の本音トーク

休日や放課後の過ごし方は?

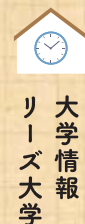
放課後や休日には友人とアートのエキシビションやオープニングパーティーなどによく参加していました。帰り道にお互い作品に対して感じたことを言い合いながら歩く時間が一番好きな時間で、今でも恋しく思います。



友人Mirunaと。Leedsの歴史に関するエキシビションにて

留学情報はこちら!

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study>



大学情報
リーズ大学

高水準の教育を提供する「レッドブリックユニバーシティ」の一つとして1904年に創始されたリーズ大学。約3万2千人もの学生を有しながらも、学生の教育システムに対する満足度の高さを保持しています。世界トップ100大学として認められており、グローバルな教育と研究の質において名声ある大学です。

ランゲージゾーンと呼ばれる言語を学ぶための施設などがあり、留学生支援のためのシステムがしっかりと整っています。そのほか、言語パートナー制度や交流イベントなどのソフト面でのサポートも魅力の一つです。



留学生体験記

九州大学で学ぶ留学生の日常を紹介するコーナーです。
今回はイギリスのロンドンから来たジョセフ・マランさんに、
九大の魅力について伺いました。



Q 日本に興味を持ったきっかけは？

2年前、兄とその友人と3人で日本へ旅行にきました。東京、大阪、鎌倉、横浜などたくさんの街を訪れたなかでも、印象的だったのが東京上野にある博物館や美術館です。博物館で目にした縄文土器は、今でもよく覚えていますね。自然にあふれ、アメ横などの観光スポットもある上野のロケーションも気に入りました。

Q どうして九州大学に？

ロンドンの大学にも日本人留学生はいましたが、日本語で話す機会はほとんどありませんでした。きっかけは、九大へ留学していた先輩との出会い。流暢に日本語を話す先輩の姿にあこがれて、私も先輩のように話せるスキルを身につけたいと考えようになったんです。北海道や東京の大学も検討した結果、先輩が通っていた九大を選びました。

Q 学校生活について教えてください。

日本語の文法や会話、日本の文化について学んでいます。週に3時間あるスピーキングクラスで練習を重ねて、うまく話せるようになりたいですね。毎週水曜の夜は「KUIFA※」というサークルのコーヒーアワーに参加しています。留学生と日本人、約40人が学食で交流して、友達の輪を広げています。

※KUIFA…九州大学国際親善会(Kyushu University International Friendship Association)の略

My Favorite



唐揚げ

日本のレストランは、とにかく安い。九大の学食もよく利用しています。うどん、お好み焼き……でもやっぱりいちばんは唐揚げ！



ココロオークション

動画サイトで知り、ファンになりました。今では歌詞を見なくても口ずさめる曲も。よく聴くナンバーは「フライサイト」。



友人

大学で出会った友人と過ごす時間は私にとって、とても大切な時間です。日本語で分からないことがあれば教えてもらっています。

Joseph Mullan(ジョセフ・マラン)さん

留学生センター Japan in Today's World(JTW)

イギリスのロンドン大学(SOAS, University of London)で世界史と日本語を学ぶ留学生。
21歳。世界史のうち、専門はアジア史とアフリカ史。日本語の授業では文法やスピーキング、
日英翻訳が中心。趣味はジャパニーズ・ロック鑑賞。大学の留学制度を利用して九大へ。



躍動

「楽」—それは「和楽器」を奏でる「楽しさ」

日本古来、受け継がれる「邦楽」と「雅楽」。
 いつの世も、和楽器が奏でる音色は人々の心を掴んで離さない。
 歴史を重んじつつ進化を求めるから、さらに楽しくなる。
 今回の躍動では、邦楽部の活動内容に迫ります。



DATA

- ◎部員数: 約60名(男女比4:6)
- ◎活動場所:
伊都地区伊都課外活動
施設Ⅱ 2階和室
- ◎活動日: 日曜日

◎問い合わせ先

E-mail: qdai_hougaku@yahoo.co.jp

Webサイト: http://www.geocities.jp/qdai_hougaku/

Twitter: 九州大学邦楽部 @qdai_hougaku

Facebook: 九州大学邦楽部 @qdai.hougaku



Webサイトに動画が
載っていますので、
是非ご覧ください！

FOCUS

「わいわい演奏会」

毎年3月に、全国の大学が集まり、他大学と一緒に演奏会をします。毎年熊本と鹿児島で交互に開催されています。

「夏合宿」・「秋合宿」

8月に篠栗の明石寺で3日間練習を行う夏合宿があります。部員同士が仲良くなることを目的としているため、レクリエーションも沢山します。11月の秋合宿は、定期演奏会に向けた強化練習を目的としているため、朝から晩まで3日間みっちり練習します。

「定期演奏会」

12月に1年間の成果を発表する演奏会をします。2016年は九州大学の椎木講堂で行うので、より一層精進したいです。

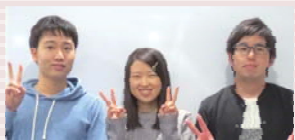
この記事は、広報室学生スタッフが制作しました。

(左から)

和田 健太郎 (工学府2年)

下山 ちひろ (理学府1年)

三根 貴大 (工学府2年)



<https://www.facebook.com/KyushuUniv.Student>

はないので、仲間との意思疎通を第一に演奏しています。そのため、「この仲間での曲を創るんだ」という気持ちで練習していますね。

邦楽部の魅力は何ですか。

八木 和楽器と言うと、地味なイメージがあるかもしれませんが、生演奏の迫力や聞きごたえは他の楽器に負けないものがあります。和楽器独特の音色で人を惹きつけることは大きな魅力ですね。

古閑 九大のように邦楽と雅楽が一緒に活動している部活動は、ほとんどありません。邦楽班と雅楽班が互いに刺激し合いながら練習し、時々一緒に演奏できるのも九大邦楽部の魅力です。

今後の邦楽部の目標を教えてください。

管 地域の方や外国の方とも触れ合って、

取材協力



八木 良彰さん
(部長・雅楽班)
工学部3年



管 美咲子さん
(副部長・邦楽班)
芸術工学部3年



古閑 美子さん
(副部長・雅楽班)
農学部3年

邦楽や雅楽の良さをもっと多くの人に知ってもらいたいです。

八木 同時に僕たち自身も、邦楽部に入っていないとできないような貴重な体験をどんどんしたいと思っています。

古閑 こうした活動を通して、「邦楽についてもっと知りたい！」「和楽器を演奏してみたい」と思う人が増えてくれると嬉しいですね。

エネルギー研究教育機構(Q-PIT)の設置

九州大学理事・副学長 副機構長 若山 正人

エネルギー 研究教育機構とは

九州大学は、「2100年の社会が理想とするエネルギー」を具現化するため、自然科学から人文社会科学にわたるエネルギー分野の研究者を結集した全学的組織として、1次(自然、炭素)及び2次(水素など)エネルギー並びに政策提言等の研究領域を融合することにより、未来社会のエネルギーシステムを構築し、技術・産業・社会のパラダイムシフトを先導することを目的としています。

Kyushu University Platform of Inter/Transdisciplinary Energy Research (略称 Q-PIT)



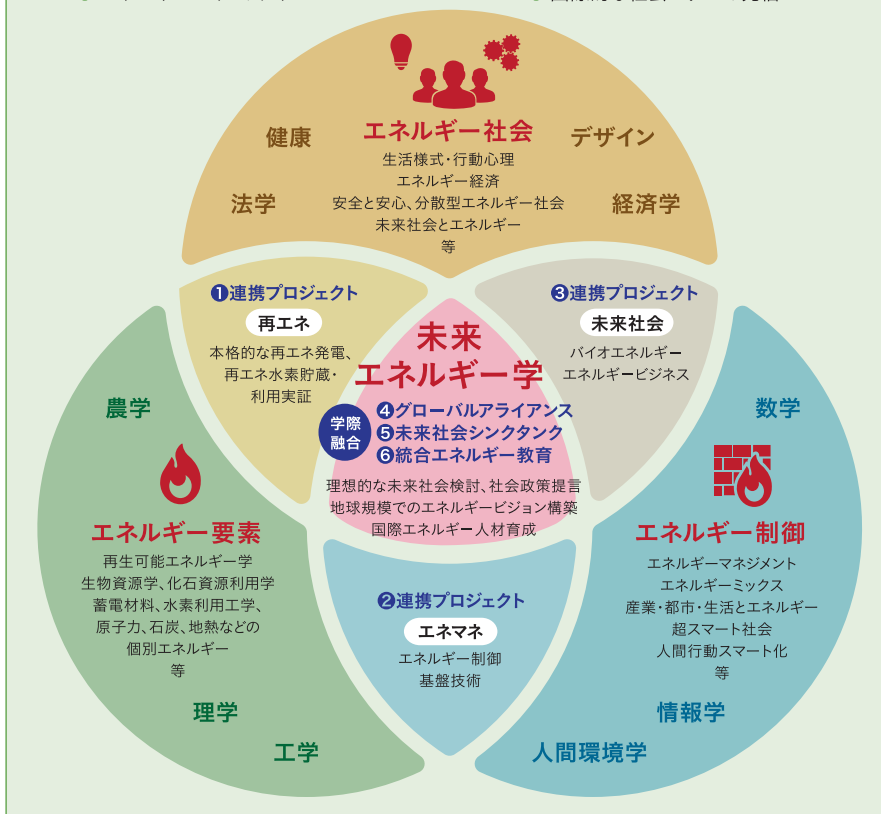
Q-PIT概要

エネルギー全体の課題解決

- 脱化石資源
- 地球温暖化防止
- エネルギーの国際戦略と国際連携
- エネルギーマネジメント
- エネルギーセキュリティ

未来社会予測とエネルギー学

- 少子高齢化、多自然災害のわが国固有のエネルギー安全学
- 九州からのエネルギー転換(日本へ、そして世界へ)
- 国際的な社会モデルの発信



これまでの取組実績

本学は、炭素、水素、風力などの世界的な研究教育拠点であり、国、自治体、産業界など一体となった取組を長年実施してきました。

エネルギーキャンパス構想を掲げ、伊都キャンパスや筑紫キャンパスをフィールドとした実証研究が進行し、見学者・視察者も多数の実績があります。

エネルギー分野で活発に活動する多数の研究所や研究センター、学科、専攻を有しているため、エネルギー分野のオール九大組織が構築可能です。

事業の必要性

エネルギー問題は地球規模の課題であり、持続発展可能な未来型エネルギー社会の実現に向けて、融合したオール九大のエネルギー拠点の構築により、エネルギー問題に對峙していくことが急務となつています。また、2015年12月のパリ協定は、「今世紀後半の温室効果ガス(CO₂)の排出を実質的にゼロ」にする極めて高い目標を設定しており、具体的な解決策の提案が必要です。

エネルギーの課題は、社会の在り方にも関わるため、個別技術のみでは解決が難しく、総合大学が可能な文理融合・学際的な取組が不可欠であり、将来のエネルギー研究教育を牽引できる若手人材の育成もまた必要です。

具体的な活動

地球規模の課題解決のため、部局の壁を取り去って学際融合研究を大幅に加速さ

せ、社会や産業の在り方も含めた未来社会のエネルギービジョンを提示するとともに、新しい学問分野を開拓・創成していきます。

●機構が支援する連携プロジェクト、学際融合

①「再生可能エネルギー利用システム研究」

風力等や水素技術の融合や再生可能エネルギー変換の低コスト化等

②「未来エネルギーマネジメント研究」

エネルギーマネジメントとエネルギー基盤技術の融合

③「未来エネルギー社会研究」

グローバルかつ長期的な視点からの環境・エネルギーの経済学的分析等

④「グローバルエネルギー研究ライアンス」

エネルギー関連の世界的な研究教育ライアンスの構築

⑤「未来社会シンクタンク」

環境性、経済性、社会性を両立させる未来社会の提言

⑥「統合エネルギー教育」

文理融合の未来エネルギー学と統合的エネルギー教育プログラムの構築

加えて、未来エネルギー研究の若手登竜門として、博士課程学生や若手研究者の支援・育成を行います。

研究教育機構 説明会を開催

平成28年10月のエネルギー研究教育機構創設に先駆け、平成28年9月27日(火)、伊都キャンパス椎木講堂において、研究教育機構説明会を開催しました。

はじめに、久保総長からエネルギー研究機構の将来ビジョンについて説明があり、続いて、研究教育機構の設置について理事・副学長である私(若山)から説明を行いました。

また、佐々木主幹教授から「2100年のエネルギーをオール九大で考える」エネルギー研究教育機構の挑戦」と題し、研究教育機構の第一弾として創設するエネルギー研究教育機構について、文系・理系の壁を越えたオール九大でのエネルギー問題への取組等について説明がありました。



説明会での若山理事・副学長



説明会の様子



説明会での久保総長

国際シンポジウム「九大エネルギーウィーク2017」 1/30～2/3で開催

〈Webサイト〉<http://www.congre.co.jp/q-pit/> 〈会場〉伊都キャンパス、筑紫キャンパス、アクロス福岡等



九州大学総合研究博物館
Kyushu University Museum

MUSEUM REPORT vol.7 / 地域資料

九州大学総合研究博物館の収蔵資料 今後の研究・活用の 可能性を秘めた音源資料



(左から) HMVイギリスグラモフォン製(昭和2年発売品)、ビクター製(ビクトロークレデンザ)、イギリスEMG製(推定)



回収した廃棄標本箱をレコード保管に活用予定



ポータブル蓄音機の機種等詳細は、今後調査する予定

「地域資料」とは、もともと図書館用語で、郷土史的な文書などの「文字資料」や、ある地域の地図や写真、近年では動画などを含む「記録資料」に対して用いられます。九州大学総合研究博物館では、それら「文字資料」や「記録資料」に加え、地域の「物的資料(モノ)」も含む、幅広い資料群をさして広い意味での「地域資料」と呼んでいます。

当館における「地域資料」は、平成12年に創設された際には想定されていなかった、比較的新しい領域の資料群といえます。その一例が、映画監督である故・田村悟史氏(1940・2008)による収集・活動資料である「田村コレクション」です。約4万4000点のSPレコードや、大正、昭和初期に製造された大型蓄音機3点を始めとする、良質な音源資料が特徴です。このほか音楽文化や近代音楽史に関わる書籍、制作映画の元になった調査記録や撮影機材などが含まれています。複数の有識者による評価と学内協議を経て、平成26年に当館に寄贈頂きました。

准教授 三島美佐子

資料を寄贈くださったご遺族は、資料の積極的活用を希望されており、平成28年度からは、上演会や講演会など催事での活用も始めました。活用の過程で、この資料が芸術工学研究院や人文科学研究院の先生方の研究に寄与することも分かっています。今後のさらなる研究の発展や利活用が期待され、そのためにも、九州大学の百年の歴史を体感できるレトロな雰囲気のある素敵な保管・鑑賞室を実現したいと考えています。

博物館公開講演会「魅力のSPレコード&蓄音機-田村コレクション初披露目-」

講演会

3部構成でSPレコードや蓄音機の魅力をお伝えします。
〈Part I〉工学編:蓄音機の仕組みや歴史
〈Part II〉文化・芸術編
〈Part III〉クロストーク&鑑賞会

日時:2017年2月4日(土) 13:00~17:30
会場:箱崎キャンパス 旧工学部本館1階
大講義室(福岡市東区箱崎6-10-1)
参加費:無料 ※事前申し込み不要

展示

田村コレクション初披露。
卓上蓄音機、SPレコード、撮影機材、取材資料、
コレクションの保全活用の将来像などを公開します。

開催期間:2017年1月10日(火)~ 10:00~17:00
休館日:土日祝※平成29年2月4日(土)のみ10:00~18:00
会場:箱崎キャンパス 旧工学部本館3階
九州大学総合研究博物館 常設展示室(福岡市東区箱崎6-10-1)
入場料:無料

お問い合わせ
九州大学総合研究博物館事務局

●TEL
092-642-4252(平日9:30~16:30)

●e-mail
office@museum.kyushu-u.ac.jp

最新の情報はWebサイトをご覧ください。 <http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/>

Topics

01 新中央図書館がプレオープン

2016年10月3日(月)、伊都キャンパスの新中央図書館がプレオープンし、久保総長はじめ、理事、副学長、部局長等が出席してオープニングセレモニーを執り行いました。

セレモニーでは、久保総長、宮本附属図書館長による挨拶に続き、富浦附属図書館副館長より、新中央図書館の建設に関する検討のあゆみや設計コンセプトについて説明がありました。

セレモニー終了後、参加者は150万冊の図書資料を収蔵できる国内有数の大規模自動書庫から、コンテナに格納された図書資料が運ばれる様子を見学しました。

新中央図書館は、この度、建物の3分の1の完成に伴い、アクティブ・ラーニング・スペース、ラウンジ部分を先行して開館(プレオープン)しました。2018年10月の全面開館までの間、学内の方



アクティブ・ラーニング・スペース



プレオープンした3分の1(第1期工事)の部分

限定でサービスを提供します。今回のセレモニー会場となったアクティブ・ラーニング・スペースは、本学が目指す「アクティブ・ラーナーを育成する大学」を象徴する場所として設計され、ウエストゾーン・センターゾーンを見渡す眺望と可動式の机・椅子を配置したフレキシブルな空間を提供しています。講習会や授業、学生たちの自由な議論の場として幅広く活用される予定です。

Topics

02 石積み遺構を発見! 元寇防塁か ―箱崎キャンパス内―

2016年9月21日(水)、本学の箱崎キャンパス中央図書館前南地点で発見した石積み遺構の一般公開を行いました。当日は晴天に恵まれ、350人を超す来場がありました。

現在、本学埋蔵文化財調査室は、箱崎キャンパス内で、九州大学統合移転事業にともなう埋蔵文化財調査を進めています。

中央図書館前南地点で発掘調査を行ったところ、加工痕のある大型の礫岩を直線状に並べた石積み遺構が発見されました。博多湾の旧海岸線に並行して南北17m以上残っており、裏止石をかませて礫岩を3段以上積み上げた部分もあります。発見された石積み遺構は、場所や構築方法などから、文永の役(1274年)

後、蒙古襲来に備えて薩摩国が造営分担したとされる元寇防塁の一部である可能性が高いと考えられます。

福岡市東部では、ここまで保存状態が良好な元寇防塁が発掘調査・記録された事例はほかにありません。本遺構は福岡市東区箱崎の貴重な文化遺産であり、日本の歴史を代表する遺跡である可能性が非常に高いものです。今回の調査地点は遺構保護のため埋め戻していますが、今後、追加調査を実施し、規模・構造の詳細を明らかにしていく予定としています。



来場者への説明を行う埋蔵文化財調査室 宮本一夫室長



発見した石積み遺構

Topics 03

九州大学が北海道大学と資源工学に関する 共同教育課程に関する協定を締結

2016年9月1日(木)、本学と北海道大学は資源工学に関する共同教育課程である「北海道大学大学院工学院・九州大学大学院工学府共同資源工学専攻」(以下、共同資源工学専攻)を修士課程として2017年4月1日に設置し、その安定的かつ継続的な実施を目的とする協定を締結しました。

共同資源工学専攻は、限られた鉱物資源を有効に活用して人類社会を将来にわたって持続・発展させていくため、科学・技術と社会・経済の双方にわたる高い知識と国際性を兼ね備えた、資源確保の未来を担うグローバル人材を養成することを目的としています。そのために共同資源工学専攻では、両者が有する資源工学の教育リソースを共有し、以下の能力・素養を修得させるための教育を展開します。

- (1) 資源工学の全貌を俯瞰できるエンジニアとしての能力
- (2) 国際的な場で活躍するために必要な積極性や適応力
- (3) 政治・経済などの社会的制約条件も考慮してプロセス全体をデザイン・マネージメントできる能力
- (4) 異なる文化や社会を理解して国際的な視点から資源の問題を議論できる力

本専攻は旧帝国大学間で開設される初めての共同教育課程であり、産業界や官界からも注目されています。両大学名が併記された共同学位を取得した修了生には、将来的に資源系企業や商社ならびに関連省庁などにおいて、リーダー的立場



共同資源工学専攻開設に先だって実施している「持続的資源系人材育成プログラム」
(文部科学省特別経費事業)における北大・九大合同ディスカッション(2016年7月 於:北大)

で国際的に活躍することが期待されています。

なお、本専攻の教育内容は、現在、本学と北海道大学において資源の分野で国際的に幅広く活躍できる人材を育てていくための共同プログラムである「持続的資源系人材育成プログラム」として試行しています。

Topics 04

伊都キャンパスセンターゾーンに「みの刻み」を設置 ～「水」、「美」、「実」…あなたは何を思い浮かべますか?～

2016年9月、伊都キャンパスセンターゾーン、センター2号館に屋外時計「みの刻み」を設置しました。

これは、2008年3月31日に定年退職された佐藤 巳之吉(さとう みのきち/高等教育開発センター技術専門職員)様からの寄附金を原資として作られたものです。

シンプルで清々しいデザインがセンター地区の建物と調和し、夜になるとバックライトの点灯により幻想的な光が時を刻みます。

「みの刻み」の【み】は、「水」「美」「実」「身」「観」「箕」「味」「視」…などさまざまな文字で表現できます。大学という広大な深い「知の森」で新たな時を刻み始めた新入生。そして、多くの学生が自由な想像を膨らませながら学生生活を過ごす空

間を「みの刻み」が見守っていきます。

「みの刻み」は、伊都キャンパスセンターゾーンのシンボルとして、大学で過ごす人々に広く親しまれることでしょう。



「みの刻み」を設置



夜の「みの刻み」

Topics

05 バドミントン部が七大戦で好成績

2016年8月9日(火)から14日(日)に東京都の文京スポーツセンターで開催された第55回全国七大学総合体育大会で、バドミントン部が昨年の成績(男子3位・女子4位)より大きく順位を上げ、男子優勝、女子準優勝の好成績を収めることができました。

七大戦で勝つには、その他の大会でも活躍し勝利への執念を持続ける必要があります。また、ある程度の技術と精神的な面も大きく関わってきます。

今年から箱崎中央体育館が使用できなくなり、これまでと同様の練習をすることが難しくなりましたが、練習の質の向上を目指し、また具体的な目標を設定したことでこのような成績を残すことができました。

日々の練習に満足するのではなく、強豪校の練習メニューを取り入れるなど、常にストイックに練習に取り組んだことが勝利へと繋がりました。

全日本インカレ出場こそあと一歩及びみせんでしたが、七大戦で好成績を残すという目標を達成することができました。応援頂いた方々に感謝し、またこれまでの経験を生かし、今後さらに好成績を残せるよう努力していきます。



表彰後の全体集合写真

Topics

06 山岳部・山岳会合同登山隊 ネパール・ヒマラヤ、ナヤカンガ峰(5,844m)登頂に成功

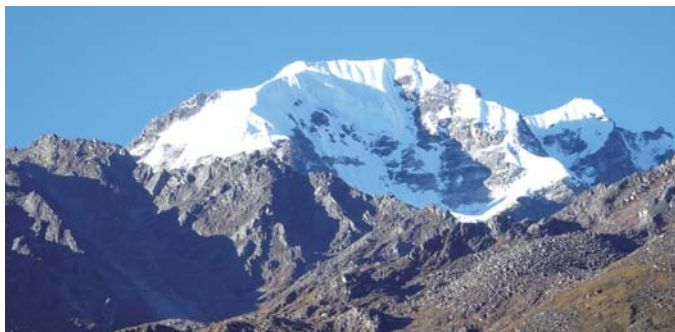
2016年9月23日(金)、本学山岳部・山岳会(山岳部OB・OGの会)の合同登山隊が、ネパール国の中部ヒマラヤにあるランタンヒマール山群のナヤカンガ峰(5,844m)登頂に成功しました。

昨年4月M7.8の大地震によって、同国ランタンヒマールも大きな被害を受けましたが、今年に入って登山活動が可能となりました。本学山岳会ではユネスコ等を通じてこれまで復興支援活動を行ってきました。

本登山隊は、中溝幸夫氏(九州大学名誉教授)を隊長とし、現役山岳部部員8人、山岳会会員2人、合計11人の隊員から構成されました。9月23日(金)、山岳部員6人とシェルパ4人が頂上アタックに向かい、10人全員が山頂までたどり着き、その後、無事

にベースキャンプまで下山しました。8人もの現役山岳部員がヒマラヤ登山に行くのは部創立以降初めてのことで、隊員は高山病に悩まされながらも登頂に成功しました。

今回の登山目的は、ヒマラヤ高峰(8,000m峰など)を目指すため、現役山岳部員がヒマラヤ登山の鍵となる低酸素環境への身体的順応過程(高度馴化)を経験することおよびナヤカンガ峰に登頂することの二つでした。天候にも恵まれ、今回の登山ではこれらの目的はすべて達成することができました。



ランタンヒマール山群のナヤカンガ峰(5,844m)



ナヤカンガ山頂にて、山岳部員とシェルパ

受賞のお知らせ

平成28年度文化勲章

文化勲章は文化の発達に関し特に顕著な功績のある方に授与されます。

中野三敏

九州大学名誉教授(文)

中野名誉教授は、早稲田大学大学院文学研究科修士課程を修了後、高等学校教諭、短期大学専任講師、助教授を経て、昭和47年4月に九州大学文学部助教授に採用、昭和57年7月に教授に昇任し、平成2年7月か



ら同6年6月まで同大学評議員、平成4年7月から平成6年6月まで文学部長を務め、教育・研究・管理運営に携わられました。また、平成11年には本学名誉教授の称号を授与されています。

中野名誉教授の主な研究業績は、従来、本格的には研究の対象とされなかった享保期を中心とする江戸中期文化に照明を当て、この時期こそが「雅(伝統)」と「俗(新興)」が理想的に融和した江戸文化の開花期であると主張し、その後の江戸文化観や研究の方向性に大きな影響を与えたことです。また長年にわたり江戸時代の書物を収集し、その

書誌的な知見を述べた業績の数々は、現代の書誌学研究の基盤となっているのみならず、江戸の書物文化を広く一般に紹介することにも貢献しました。さらに伝記研究者としては、浮世絵師・写楽の正体が阿波藩お抱えの能役者・斎藤十郎兵衛であることを立証するなど、その業績の影響は文学領域だけではなく、思想史や美術史などの周辺領域にまで及んでいます。

平成28年 秋の叙勲

【国際人道・開発協力功労】

〈旭日双光章〉

中村哲

ピース・ジャパン・メデイカルサービス総院長
九州大学高等研究院特別主幹教授

【教育研究功労】

〈瑞宝中綬章〉

竹松 正樹

九州大学名誉教授(応)
元九州大学応用力学研究所長

國田 寛

九州大学名誉教授(数理)

木村 元喜

九州大学名誉教授(生医)

三枝 豊平

九州大学名誉教授(比文)

【看護業務功労】

〈瑞宝単光章〉

高木 祥子

元九州大学病院看護師長

平成28年度 医学教育等 関係業務功労者表彰

文部科学省が、大学における医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に長年従事され、顕著な功績のあった方々に対し、表彰するものです。

【文部科学大臣表彰】

張 旌旗

歯学部口腔解剖学 技術専門員

第20回工学教育賞

公益社団法人日本工学教育協会が、わが国の工学教育ならびに技術者教育等に対する先導的、革新的な試みによって、その発展に多大の影響と貢献を与えた業績を表彰するものです。

【文部科学大臣賞】

大学院総合理工学府

キャンパスアジアプログラム

「エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム」

データサイエンスアワード 2016

一般社団法人データサイエンティスト協会が、データ分析・活用により国内のビジネスや産業の発展に大きく貢献をもたらした企業団体を表彰するものです。

【最優秀賞】

大学院システム情報科学研究院
情報知能工学部門 内田研究室
「バイオイメージ・インフォマティクス・生物学と画像情報学のデータサイエンス協働」

eラーニングアワード 2016

日本IMS協会がテクノロジーの教育利用において多大な貢献のあった優れた事業を表彰するものです。

【第1回IMS Japan賞 最優秀賞】

e-Learning Awardsフォーラム実行委員会より贈られる賞です。

【第13回

日本e-Learning大賞
教育ビッグデータ特別部門賞】

基幹教育院
ラーニングアナリティクスセンター

「データドリブンな教育改善を支援するM2B（みつば）システム」

平成27年度第10回 「児童教育実践につらつら 研究助成」

公益財団法人博報児童教育振興会が、ことばの教育と教育実践の質を向上させる、新しい視点を持つ研究を助成し、その成果が教育の現場に反映され、児童教育の基盤を充実させることを目的としています。

【優秀賞】

李 曉燕

大学院比較社会文化研究院 助教
「生活者としての外国人保護者のための学校プリント研究」

国際技術コンテスト TECO Green Tech 2016

台湾の大手電機メーカー東元（TECO）の関連財団である東元科技文教基金が主催する国際技術コンテストです。

【準優勝】

次世代風力開発プロジェクト

ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター（QREC）
グローバル・チャレンジ&クリエイション（G・C&C）

「AUTODESK CREATIVE DESIGN AWARDS 2016」

オートデスク株式会社が主催する、プロ・アマを問わず全てのデザイナーを対象としたもので、「The Future of Making Things」創造の未来」というテーマの下、開催されました。

【ものづくり部門グランプリ】

水野 諒大

芸術工学府修士一年
受賞作「SWELL」
内部に隆起を設け攪拌を促すことで、マドラーやスプーンがなくても粉末を溶かすことができるコップ

土木学会景観・ デザイン委員会デザイン賞

公益社団法人土木学会景観デザイン委員会が、土木構造物や公共的な空間の計画や設計技術、制度の活用、組織活動の創意工夫によって周辺環境や地域と一体となった景観の創造や保全を実現しているものを顕彰する制度です。

【最優秀賞】

大学院工学研究院
環境社会部門
流域システム工学研究室
「上西郷川里川の再生プロジェクト」

感謝状

久保 幸充

理学部数学科 4年

理学部数学科4年の久保幸充さんに福岡県東警察署長から窃盗容疑者の逮捕協力を行った行為に対して感謝状が授与されました。

久保さんは、10月21日（金）の夕方に東区の商業施設の駐輪場内で「ドロボー」と声をあげて少年を追いかける被害男性を目撃し、近くにいた会社社員と一緒に追いかけて、少年2人を捕まえました。

久保さんは、「ドロボーという声に反応し、何も考えず反射的に行動しただけです。後になって、犯人が凶器を持っていなかったことにホッとしています」と語りました。

東署警備課の担当者からは、「窃盗の容疑者を捕まえていただいた勇氣に感謝したい。ケガがなく良かった」と感謝の言葉が延べられました。



卒業まであと少し、私らしく

歯学部歯学科6年 原田 有理子(山川賞平成25年度受賞)

山川賞を頂いてから既に3年の月日が流れ、最終学年の6年生となりました。現在は毎日の病院実習のみならず多くの活動を行っています。

5年生の夏休みには、インドネシア最古の大学であるガジャマダ大学歯学部で開催されたサマースクールに参加し、お互いの国の歯学の強み、弱みを学びました。また設立から29年の歴史を誇るネパール歯科医療協力隊に参加し震災後のネパールにて「子どもこころプロジェクト」のリーダーを務めさせて頂きました。平均年齢が50歳を超える団体の唯一の学生隊員で、至らない点多々あった中、厳しくも優しく御指導をして頂きました。

大学では口腔保健推進学講座にて研究を開始し、先生方の熱心な御指導のもと、JADR(国際歯科研究学会日本部会)にて学会発表を行いJoseph Lister Awardを受賞致しました。

大学生活最後の1年も学内外で様々な活動を行いました。トビタテ!留学JAPAN第4期生としてデンマークコペンハーゲン大学での国際保健のサマースクールに参加し、その後アフリカのマラウイという国で1か月間インターンシップ生として歯科に関する調査を行いました。木の枝、灰、小麦粉で歯を磨き、虫歯になった原因を尋ねると「村のタブーを破ったんだ」と答える人々に出会いました。エイズ、マラリア、結核などの感染症が重要視される国際保健分野ですが、口腔の問題で食べ物が食べられない、と訴える人々を目の前にし、歯科の重要性を再認識しました。

国家試験合格は勿論の事、卒業まであとわずか、私らしく邁進していきます。



マラウイにて、インターンシップ先の同僚の家で1か月間ホームステイを行いました。(中央が本人)

九大会員の皆様へ ～新たな特典が加わりました～

九大会員の皆様には、学内・学外施設の利用、生涯メールアドレスサービスなどの特典をご用意しております。

平成28年度は新たに「レストランひらまつ」、「中国家庭料理 天天」、「イトリー・イト」が特典に加わりました。

このほかにも多くの特典をご用意しております。詳細は九州大学基金Webサイトをご覧ください。



ぜひご利用ください

九州大学基金Webサイト
<http://kikin.kyushu-u.ac.jp/>

九大基金

レストランひらまつ Webサイト:<https://www.hiramatsurestaurant.jp/>

九大会員
特典

- ・レストランご利用時のご飲食代金より**20%割引**
- ・ご婚礼時のご飲食代金より**10%割引**

対象店舗

- ・レストランひらまつ博多(中洲川端) TEL:092-263-6231
- ・レストランテASO天神(天神) TEL:092-724-0600
- ・ブラッスリー ポール・ボキューズ博多(博多) TEL:092-413-5110



レストランひらまつ博多

中国家庭料理「天天」(てんてん)

稲盛財団記念館1階 TEL&FAX:092-802-6940

九大会員
特典

- ・お食事利用時**デザート**をサービス(日替わりランチ除く)
- ・テイクアウト(学内配達含)利用時にもデザートサービス
- *その他、各種キャンペーン実施時には別途特典を予定しております。



本格イタリア料理店「ITRI・ITO」(イトリー・イト)

椎木講堂2階 TEL:092-807-0270 Webサイト:<http://www.itri-ito.com/>

九大会員
特典

- ビュッフェランチ:お一人様(通常)1,200円(税別)
→**九大会員割引で1,000円(税別)**
(前菜ビュッフェ+本日のパスタorピッツァ+本日のデザート+コーヒーor紅茶)





愛媛同窓会総会・懇親会

平成28年8月20日(土)、いよてつ高島屋ローズホールにて、愛媛同窓会の総会・懇親会が開催されました。設立から5回目の総会となります。名簿登録183名、総会出席55名の会となりました。

九州大学からは、若山理事・副学長のご出席をいただき、総会を盛り上げていただきました。

総会は蔵原一郎議長(昭和29年・医学部卒)により進行され、昨年度の活動報告、決算等が承認されました。また、若山理事・副学長より、九州大学の今後の取組についてお話をいただきました。

今回の総会では、初の試みとして、宇佐元恭一氏(昭和57年・経済学部卒)のコンサートを開催いたしました。美しい歌声と明るいステージで、楽しい時間をご提供いただきました。

中締めでは、恒例の学生歌「松原に」を全員で歌い、結束力を高めました。



総会・懇親会の様子

今後同窓の皆さまが、より交流を深めることができ、より良いネットワークを構築していけるよう、努力を重ねて参ります。今後ともよろしくお願いたします。

九州大学愛媛同窓会事務局 石崎 隆志(平成10年・薬学研究科修了)

〈連絡先〉〒790-0044 愛媛県松山市余戸東4-9-16(株式会社メディカグループ内) TEL:090-8697-2559

〈関連Webサイト〉<http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/19>



文学部同窓会総会・懇親会

今年度の文学部同窓会総会は、懐かしい箱崎キャンパスの文系講義棟で8月27日(土)に開催されました。

最初に船津正明会長(昭和37年卒)が、来年度の文学部同窓会創立60周年に向けて、奨学金制度の充実を柱とする記念事業を進めていくこと、そのために募金事業を開始したことなどを述べられました。名誉会長の久保智之文学部長(昭和56年卒)のご挨拶に続き、総会は竹村則行氏(昭和49年卒)が議長に選出され、全ての議案等が承認されました。

その後、文学部歴史編纂室長の後小路雅弘教授(昭和53年卒)から、文学部所蔵の教授肖像画の鑑賞に先立ち、解説をいただきました。さらに、九州大学文書館の折田悦郎教授(昭和53年卒)の御案内により、近く解体予定の旧法文系建物など、箱崎キャンパス建築探訪を行い、懇親会は文系食堂で開催されました。



101講義室での総会の様子

箱崎キャンパスでの最後の開催となる来年度総会にむけて記念事業等の準備をすすめてまいります。会員の皆様には是非とも記念募金へのご協力をお願い申し上げます。

文学部同窓会副会長 高野 和良(昭和63年卒)

〈連絡先〉文学部同窓会事務局 TEL:092-632-6070(通常は留守番電話にて対応します) E-mail:bundo@lit.kyushu-u.ac.jp

〈関連Webサイト〉<http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/alumni/>



インドネシア同窓会

ジャカルタおよびその近郊に在住のOBにて、半年に一度、旧帝国大学7校が参加する七帝戦ゴルフが開催されています。

わが九大は、記念すべき第一回に優勝を飾るも、メンバーの入れ替わりや他校の追い上げもあり、その翌年には最下位に沈みました。臥薪嘗胆で盛り返し、直近では上位につけながらもあと一歩優勝には届かないという状況が続いておりました。

平成28年9月に行われた第8回大会においては、7大学総勢84名が参加しました。

九大は大屋敦志ゴルフ部長(平成16年・工学部卒)のもと、世代を越えた結束と、各参加者がもてる力を遺憾無く発揮し、見事7大会ぶり2度目の優勝を果たし、学生歌「松原に」をジャカルタの空に響かせました。

成績はもとより、遠い南の地で日々生活するもの同士で懇親する時間は、日頃の不便や苦勞を忘れるひと時で、何物にも代え難い貴重な機会となっています。

今後も友好関係も深めつつ、母校の良き名を轟かせてまいります！



7大会ぶりの優勝！

東山 陽介(平成14年・農学部卒)

〈連絡先〉E-mail:viayos25@gmail.com

九州大学アカデミックフェスティバル
2016(ホームカミングデー)

平成28年10月15日(土)、伊都キャンパスの椎木講堂をメイン会場として、九州大学と九州大学福岡同窓会の共催により、「九州大学アカデミックフェスティバル2016(ホームカミングデー)」を開催しました。

本学では、平成18年度より、主に本学の同窓生を対象に、九州大学の過去・現在・未来の姿を見ていただくことを目的としてホームカミングデーを開催してきました。今回は、「社会とともに発展する大学」を目指し取組を進めている九州大学の「今」の状況を、本学に在籍経験のある方々はもちろん、高校生、地域住民の方々など、幅広く社会の皆様にも楽しみながら知っていただくイベントとして実施しました。

当日は、久保総長、福岡同窓会の貫正義会長(昭和43年・経済学部卒、九州電力株式会社代表取締役会長)の挨拶の後、山川賞受賞学生2名、本学大学院芸術工学研究院の鶴飼哲矢准教授及び水素エネルギー国際研究センター長の佐々木一成教授による講演が行われました。

その後の燃料電池自動車(ホンダ・クラリティ FUEL CELL)納車式では、株式会社本田技術研究所の守谷隆史氏(四輪

R&Dセンター上席研究員)の挨拶の後、本学卒業生である安藤章二氏(平成8年・工学部卒、同センター研究員)から久保総長へゴールデンキーが引き渡されました。

交歓会に引き続き、大会議室では、NHK福岡放送局キャスターの佐々木理恵氏(平成19年・大学院芸術工学府修士課程修了)の司会・進行の下、さまざまな分野の教員6名によるミニ講義が行われたほか、椎木講堂の各所で研究成果や自治体・同窓会等の活動状況の紹介や物販を行うブース出店などがあり、多くの来場者で賑わいました。

また、Q-synce & Open Cafe 2016では、ゲストスピーカーをはじめとする同窓生と参加者との間で、就職やワークライフバランスなどについて活発な意見交換が行われました。

椎木講堂外においても、伊都キャンパスバスツアーを実施し、多数の来場者が参加されました。

高校生を含む一般からの参加人数は、昨年を大幅に上回り約230名となり、全体で800名を超える方が来場され、盛会のうちに終了しました。



「九州大学の“今”がよくわかるミニ講義」の様子



「同窓生と在学生の交流会(Q-synce)」の様子



久保総長による挨拶



ホンダ・クラリティ FUEL CELL 納車式の様子



交歓会の様子



ブース出展の様子

九州大学総務部同窓生・基金課 九州大学福岡同窓会事務局

TEL:092-802-2157 E-mail:academic-fes@jimu.kyushu-u.ac.jp

〈関連Webサイト〉九州大学アカデミックフェスティバル2016 http://kikin.kyushu-u.ac.jp/academic_festival/



下川勝久会長の挨拶

平成28年10月21日(金)、名古屋市のトヨタ自動車葵クラブで、恒例の「東海九大会」を60名の参加を得て開催しました。今年3月に「九州大学同窓会連合会」に加入して、初めての総会では会則の制定や熊本地震被災学生支援金として10万円寄附することを承認して終わりました。

続いて、九州大学キャンパス計画室の坂井猛教授による『伊都キャンパス知の拠点づくりの軌跡と展望』の講演で、新キャンパスの目覚ましい発展状況と今後の計画の詳細や六本松キャンパスの変貌、さらに箱崎キャンパスの歴史的建造物が形を変えて残されることなどを興味深く聞きました。

その後、昭和を思わせる和室で懇親会を開催。永年、会の運営に寄与された中部政次郎副会長(昭和23年・法学部卒)が5日前に急逝された事を受け献杯に始まり、新卒者紹介など和やかに会は進みました。最後は全員が抽選会で得た賞品を手に学生歌「松原に」を斉唱して無事に会を終えました。



第25回「東海九大会」

木下 弓子(昭和43年・文学部卒)

(連絡先)東海九大会事務局 時高 豊彦(昭和46年・工学部卒)

TEL:090-9191-7616 E-mail:tokitaka@mb.ccnw.ne.jp



紹介される留学生

平成28年10月21日(金)、西鉄グランドホテルにて第42回法学部同窓会総会・懇親会が開催され、会員のほか教員、現役学部生等を合わせ約200名が出席しました。

総会では陶山秀昭会長(昭和42年卒)の挨拶、九州大学法学研究員の田中教雄院長(平成59年卒)による法学部の近況報告、諸議案の審議の後、五十君麻里子教授(平成2年卒)から平成30年7月に福岡で開催されるアジアで初めてとなる比較法国際アカデミー第20回国際会議の紹介が行われました。

続いて行われた懇親会では、羽田野節夫副会長(昭和48年卒)の発声による乾杯の後、来賓の九州大学の山縣理事の熱意あふれるご挨拶、熊本支部による活動報告、また恒例となった名誉教授、現任教員、留学生、現役学部生の自己紹介が行われました。

例年同様、卒業後間もない若い会員も多数出席した懇親会は終始にぎやかで、最後に当番幹事による万歳三唱でお開きとなった後も、名残を惜しむ姿が見られました。



法学部同窓会総会・懇親会

第42回九州大学法学部同窓会 当番幹事 馬場 宏明(平成2年卒)

(連絡先)法学部同窓会事務局 TEL:092-642-3168 E-mail:dosokai@law.kyushu-u.ac.jp



頑張れ、九大大生! 就職セミナーの様子

平成28年10月22日(土)、箱崎キャンパスにて「就職セミナー」を行いました。これは平成30年春就職予定の学生を対象に、2月に続き2度目の開催となります。東京から様々な業界の若手同窓生8名と、Skypeを通してドイツからも1名参加し、教室一杯の学生に業界や自社の概要を説明しました。

当同窓会としては、学生に地元で働いて欲しいという声もある事を承知していますが、以前に比べ余りに地元志向が強くなり中央に出てこない現状に、それが九大の地位低下に繋がっている事に危機感を覚えており、又、大学のグローバル人材の育成という方針をサポートする意味でも、このセミナーを実施しました。併せて、OB・OG面談システムを通じて就活生が先輩同窓生に面談する支援も行っています。

夏の「大懇親会 Summer Festa」・就活支援、若手勉強会と実施するイベントは増えましたが、単に「昔は楽しかった型」の同窓会ではなく、未来に向かって同窓生と大学が共に発展していく会を目指し、活動が続けてゆく所存です。



東京同窓会就職セミナー

九州大学東京同窓会事務局次長 植崎 光雄(昭和46年・法学部卒)

(連絡先)E-mail:kyudaitokyo@gmail.com

(関連Webサイト)http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/62



住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

九州大学広報室	TEL:092-802-2130	E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
九州大学学生後援会	TEL:092-802-5968	E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp
九州大学同窓会連合会	TEL:092-802-2158	E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp